

こんな場面でこの関数

—冠動脈サブトラクション編—



3Dを作成する際にふだんは骨も肝臓も血管も、ノイズが少なく3Dの表面がつるりと
きれいに観察できるよう軟部関数をお使いかと思います。

注目したい領域に限っては肺野関数や骨関数が使われることもあるようです。

今回は、冠動脈サブトラクションのMPR作成に頭部関数を使っているご施設の画像とコ
メントをご紹介します。

■ご施設のコメント

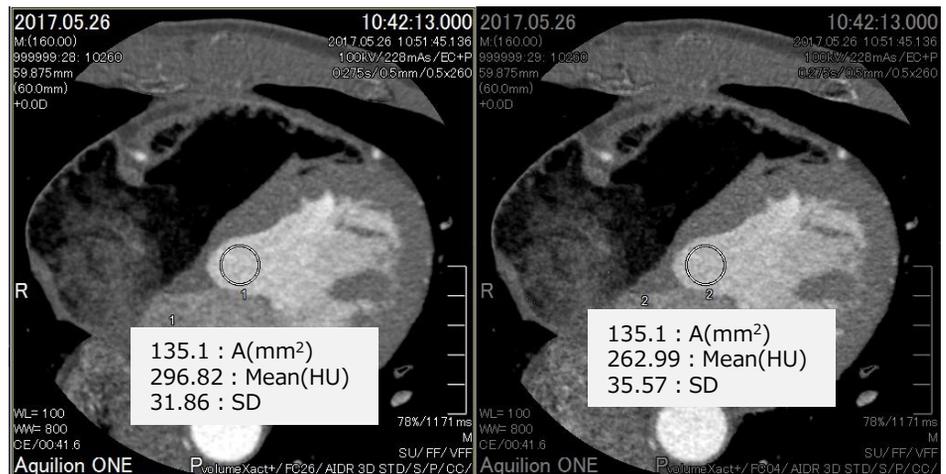
『頭部関数のFC26は従来冠動脈CTAで使用していたFC04に比べて冠動脈のCT値が
高く、SDも良好。多少ボケる印象があり分解能を犠牲にしているが、サブトラクシ
ョン後のCT値低下やSD劣化を考慮してFC26を使っている』とのことでした。

■冠動脈サブトラクション前後のCT値とSD

頭部関数 (FC26)

軟部関数 (FC04)

サブトラクション後



サブトラクション前



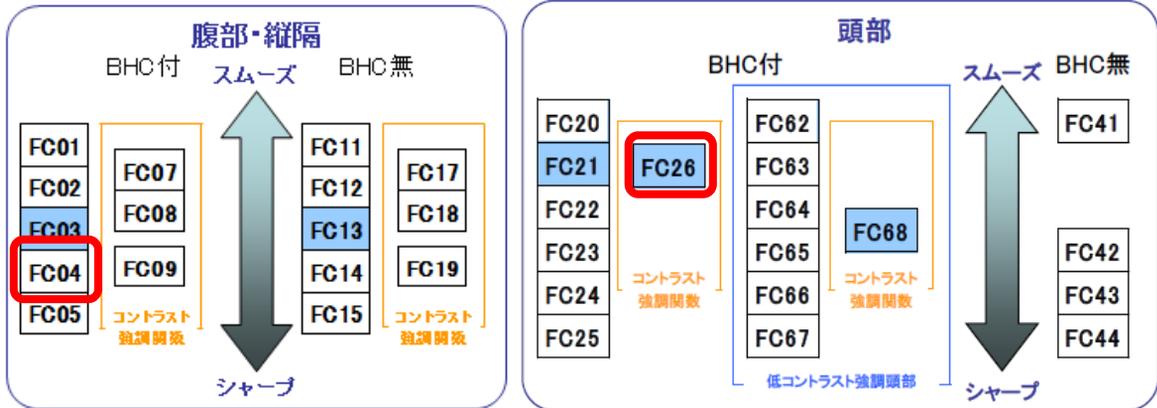
※上記はAquilionONEV7.0.での画面で、装置・バージョンにより操作が異なる場合がございます。
ご使用の装置での操作に関しては東芝CTアプリケーション担当までお問い合わせください。

こんな場面でこの関数

—冠動脈サブトラクション編—



■ 関数表



ご施設でお使いの関数は頭部用のFC26。通常は腹部・縦隔用関数が多く使われています。前項ではFC26とFC04との比較画像でした。

頭部関数 (FC26)



軟部関数 (FC04)



今回はLADにステントが留置された症例を提示しています。処理後のCT値やSDもそうですが、FC26のサブトラクション画像に比べてFC04では引き算されたステント部分のエッジがより強調されてしまう、といった理由もあるようです。

画像提供およびコメントのご協力：華岡青洲記念心臓血管クリニック様
ご使用装置：AquilionONE GENESIS Edition